

目次

序文——歴史的仮名遣と科学	押井徳馬	3
とくに意味はなし	コシヌケ1040	9
近畿人の強がり	名賀月晃 ながつきあき 嗣	17
正かなつれづれ	佐和山靖子	18
さらば「さんま坂のご隠居」く丸谷才一さんのことく	窪田顕範	20
「法令における漢字使用等について」に就いて	廻藏 すくも 巖	22
正字正かなと近代國家	佐藤俊	25
図書館の蔵書への落書きに関する一事例報告	blue day	26
中原淳一と「少女らしさ」	押井徳馬	29
作文苦手な本の虫	押井徳馬	31
特輯「歴史と文學」		37
歴史		
福澤諭吉の皇室論——「尊王論」「帝室論」	山口翔平	38
昭和二十一年の憲法改正について	越智おでん	39
後南朝入門	名賀月晃 ながつきあき 嗣	41
支那史と史記	平頭通	44
カミとホトケの不思議な共存——「ホツマ伝承」に神仏習合の淵源を問ふ	名賀月晃 ながつきあき 嗣	57
	原田武虎	60

ロマン主義と古典主義	野崎健秀	82
大衆の反逆	おとづさん	87
一九八四年の日本	伊川清三	89
歴史修正主義の概念と基本原理	TuvianNavy	95
サンクリストバルへのA・Hの移送	野崎健秀	100
ヴォーリズ建築の魅力	押井徳馬	106
谷筋に行く	はいおく	117
文 学	山口翔平	123
文学と政治	野崎健秀	124
たまに行くならこんな聖地巡禮	佐藤俊	128
小劇場演劇と仮名遣ひ	山本握微	134
読書について	にやろー	140
月 鏡	酒井景二郎	143
念力短歌トレーニング	酒井景二郎	145
ひげよ、さらば	につちも	147
スタンド・バイ・ミー	林枯山	151
特輯「安全」		153
名乗るに時あり、名乗らざるに時あり	押井徳馬	154
国防について	名賀月晃嗣	168

明日の戦争	野寄健秀	170
無災害記録の危険性	空 拇	173
西成なんか怖くない	押井徳馬	174

その他

しじまへ	酒井景二郎	185
プレッツェル	酒井景二郎	186
再構築バースデイ	刑部しきみ	190
小石の頃	酒井景二郎	194
餅の話	刑部しきみ	213
貰ったカメラの事	松丘テブ造	217
入場料を徴取するためのコスト	山本握微	219
男女参畫法の問題點——拙稿へのご質問に對するお答へ	越智おでん	222
刑部、仕事やめるつてよ	刑部しきみ	225
書評コーナー		226
紙の闇黒日記第4回	野寄健秀	229
原稿を書いてみませんか		231
編輯後記		234



エッセイ

「法令における漢字使用等について」に就いて

廻藏巖

平成廿二年十一月卅^{さんじゅう}日に新たな常用漢字表が告示せられたことは、讀者の皆様は御存じであらう。之が告示された際には、新聞に其の一覽が掲載せられたりした。

常用漢字表が變^かはると其^それに左右されることになる物の一つに行政機關がある。同日、各行政機關宛の「公用文における漢字使用等について」と云ふ内閣訓令があつた。更に同日、題名にある内閣法制局長官による「法令における漢字使用等について」と云ふ物も出された。

一般に法律の文は難しいと言はれ勝ちだが、抑^{おさ}扱^めつてゐる内容が難しいのだから其れは當然のことである。難しい特定のことに名前を附け、以て専門用語とする。これを一切拒めば文は冗長^{じようちやう}になる。電子化の時代だから冗長になつても持ち運びには困らないと云ふ文句もあらうが、結局讀むのは人間である。持ち運び云々だけでは濟まないのだ。電子化の時代ならば、専門用語を押すと其の説明が出て來る様にすれば宜しからう。また、蔑^{ないがし}ろにされ勝ちであるが格式と云ふ物も求められるのであるから、稍改^{やや}まつた表現のなされることは何ら悪いことではない。

さて、餘談^{よだん}が長くなつたが、ここで先述の「法令における漢字使

用等について」の一部分を御覽に入れたい。(原文は横書き。「」は「」に置換した。行間及び字間は必ずしも保たず。)

1 漢字使用について

中略

(5) 常用漢字表にない漢字で表記する言葉及び常用漢字表にない漢字を構成要素として表記する言葉並びに常用漢字表にない音訓を用いる言葉の使用については、次によるものとする。

ア 専門用語等であつて、他に言い換える言葉がなく、しかも仮名で表記すると理解することが困難であると認められるようなものについては、その漢字をそのまま用いてこれに振り仮名を付ける。

【例】暗渠^{きんきょ} 按分^{あんぶん} 蛾^が 瑕疵^{かし} 管渠^{きんきょ} 涵養^{かんよう} 強姦^{かんかん} 砒素^{ひそ} 埠頭^{ふ頭}
中略

ウ 仮名書きにする際、単語の一部だけを仮名に改める方法は、できるだけ避ける。

【例】幹旋^{かんせん} ↓ あっせん (「あつ旋」は用いない。)
煉瓦 ↓ れんが (「れん瓦」は用いない。)

— エッセイ —

作文苦手な本の虫

押井徳馬

幼児だつて漢字を読みたい

幼児の記憶力を馬鹿にしてはならない。「幼児に漢字は難しい」と云ふのは大人の勝手な思ひ込みだ。

私は筋金入りの「本の虫」だが、その歴史は私が三歳の頃にまで遡る。私の家には本が溢れてゐた。両親が買ってくれた子供向けの本、従姉の名前がペンで書かれたお下がりの本、そして両親自身の本。幅半間の大きな本棚だけでも五、六架はあつて、まるで小さな図書館のやうに読みたい放題、と云ふ環境に育つた子供であれば、たとへ読書を禁止されても本の虫に育つ。

部屋の壁には五十音表が貼られてゐたが、嫌々覚えた事も、母親と膝を突き合はせての「勉強タイム」も特になかった。兎に角知識に飢えてゐた私は、ひらがなもカタカナも、両親に少し教はつた後は自発的に覚えていつた。かうして五十音をすぐに覚えてしまふと、書棚にある幼児向けの絵本を片端から読んでいき、それでも足りないとい図書館で借りた絵本も読むやうになつた私は、そのうち、ひらがなでもカタカナでもない文字——漢字——がある事に気附く

やうになつた。四歳の頃である。

幸ひ、子供向けの本には脇に振り仮名があつたので、それを見ながら片端から漢字の読みを覚えていき、自分でも書かうとするくらゐだつた。お菓子の箱やら街の看板やらにある漢字を指差して、「ねえ、これ何て読むの?」と両親に度々質問するやうになつた。

「あなたには漢字はまだ早いでせう」と言はれなかつたのは、幸ひにも、私の人生を大きく方向附けた出来事だつた。私が漢字好きなる事に理解を示してくれて、漢字で書かれた本や、小学生向けの国語辞典までが手許に備へられたのである。最終的には、小学校に上がる前の段階で、教育漢字千文字近くを、読むだけは読めるやうになり、小学一・二年生で習ふ漢字くらゐなら書く事も出来た。

兎に角、仮名書きされてゐる言葉を見ると、「漢字ではどう書くのか」を知りたくて仕方がなかつた。子供向けの本では「でんしや」とか「かん字」のやうにかな書きや交ぜ書きを多用した本に囲まれてゐたけど、私は「本当は電車、漢字と書くのだ」と云ふ事を決して忘れなかつたし、無意識のうちに脳内で「電車」「漢字」に変換して読んでゐたやうに記憶してゐる。

それを知るのに、新たに手に入れた「国語辞典」と云ふ道具は強

後南朝入門

平頭通

プロローグ

日本が敗戦して直後のGHQ占領時、自称天皇が一時流行った事がありました。其中に、自称南朝後胤として「熊沢天皇」こと熊沢寛道がゐりました。彼は、南朝天皇直系の子孫であると主張して世間を一時賑はせました。云々。

歴史の中で人気があると言へば、平安の雅・源平合戦・戦国時代・天下泰平の江戸、後は幕末ぐらゐのものでせうか。室町時代なんて言ふのは、国史のエアポケットのやうな時代に見られ勝ちです。室町時代と言へば何を思ひ浮かべるでせうか。後醍醐天皇・足利尊氏・南北朝・足利義満・金閣寺・

銀閣寺・勘合貿易・応仁の乱、一寸知つてゐる人でも出て来るのは此の程度ではないでせうか。之等は皆、正史に出て来る項目ですが、私が之から書くのは正史から外れた歴史、言はゞ闇に消された歴史を扱ひます。平たく言へば、南朝の其后のお話になります。

一、両統迭立

抑々の始りは、鎌倉時代、第八十八代後嵯峨天皇が薨した遺言からになります。後嵯峨天皇は、其の遺言で自分の皇子の内、後深草天皇の子孫ではなく、其の弟の龜山天皇の子孫が皇位を継いで行くやうにした為、後嵯峨天皇が崩御した後、後深草天皇と龜山天皇との間で対立が発生し、鎌倉幕府の仲裁により、両者の子孫の間で数十年を目処に交互に皇位を継承して行き、院政を行ふことゝしました。其后、約八十年

一九八四年の日本

伊川 清三

核戦争後とその後の革命を経て、世界は三つの超大国に分

割せられてゐた。大陸ヨーロッパとロシアを支配するユーラシア。東アジアを支配するイースタシア。南北アメリカ、ブラテン島、アフリカ南部、豪州を支配するオセアニア。オセアニアは「偉大な兄弟」を支配者として仰ぎ、イングソックなる思想をイデオロギーとして掲げてをり、ユーラシアとは敵對關係にあつた。物語の舞臺はエアストリップー（舊イギリス）のロンドン。ロンドンは毎日敵國からのミサイル攻撃に晒されてをり、敵國ユーラシアの最前線だ。主人公のウィンストン・スミスは眞理省に勤める下級役人であり、「歴史の修正作業」が仕事である。彼はふとした切缺から日記をつけるといふ行爲（もはや禁ぜられてゐる）に耽り、非愛國的思想を募らせ、反政府組織に所屬するやうになり……。

以上が「一九八四年」の粗筋である。本稿ではジョージ・オーウェルの執筆したデイストピア小説を解説し、現代日本

が如何に一九八四年的な世界であるかを述べていく。

先程述べた粗筋のとおり、これは典型的なデイストピア小説である。被支配者階級は抑壓せられ、言論・思想の自由は統制せられた社會。それに疑問を抱きながら隠し續ける主人公がをり、ふとした切缺から反政府活動に入れ込むやうになる。もつとも、ほとんどのデイストピア小説といふのは煎じ詰めればこの單純な構造を基本とする。いかにしてそのデイストピアに説得感を持たせるか、反理想郷に現實感を持たせるか、その反理想郷にて主人公を抗はせるかが、その作品の質を決めると言つてよい。

本作はデイストピア文學の金字塔とも言へ、同時にデイストピア作品の教科書的な作品であり、多くの同系統の作品に見られる要素を大體含んでゐる。——體制維持のための戦争、存在するか定かでない指導者、監視社會、感情の抑制、思想の統制……どれも緻密なまでに物語に組み込まれ、壓倒的

サンクリストバルへのA・Hの移送

(ジヨージ・スタイナー著)

野 寄 健 秀

近代以来、日本人には支那でも朝鮮半島でも率先して大虐殺をやらかすやうな英雄は出なかつた。近代以前にもせいぜい織田信長がゐたくらみである。殺したいほど憎くて憎くて仕方がない、と云ふ感情が、日本人にはあまりない。殺人事件も癡話喧嘩がせいぜいである。

昨今流行りの「嫌韓」も、所詮「嫌」韓に過ぎない。韓國人を嫌つてゐるだけで、韓國人を惡人として憎んでゐるのではない。それが日本人のぬるいところだ。もつとも、韓國人も別に憎まなければならない程の大層な事は歴史上してゐない。日本人の不幸は、憎むに値する巨大な惡と云ふものを周圍に持てなかつた事だ。

一方、ドイツ人は「ユダヤ人許すまじ」と言つて大虐殺をやらかした。彼等は巨大な惡としてのユダヤ民族と云ふものを身近に持つてゐた。ナチスのユダヤ人虐殺は「不幸な出来事であつた」と決り文句で評するのが一般的だ——が、しか

し、果してそれは本當に不幸だつたか。

自身ユダヤ人でありアメリカに亡命を餘儀なくされたジヨージ・スタイナーが、小説『サンクリストバルへのA・Hの移送』で、「ユダヤ人を虐殺すべき理由」を書いてヒトラーを「辯護」してゐる。斯うした小説は日本人は絶対に書けない。

スタイナーの小説は一九八一年の發表後、歐米で大變な論争を惹起したと言はれてゐる。邦譯は一九九二年に出た。日本で話題になつたとは聞かない。ユダヤ人絡みの怪しい出版社から出た事もあるが、そもそも日本人にはこの手の問題を扱ふ能力が無い。

日本人は今、再び右傾化してゐる、と言はれる。そして、日本人自身がそれを大いに「危惧してゐる」——危惧「して見せてゐる」。「日本人が左傾化してゐると安心だ」と云ふ發

ヴォーリス建築の魅力

二〇一二年五月、私は近江国、滋賀県に旅行に行つて来ました。彦根城に行つて、あの有名な餅みtainな顔の猫に会つて来るのも目的の一つでしたが、私が更に期待してゐたのは、とあるアニメのモデルとなつた学校校舎を実際にこの目で見る事でした。さう、高校の軽音楽部をメインテーマに青春を描いたアニメ「けいおん！」の舞台、「私立桜が丘高校」のモデルとなつた、豊郷町立豊郷小学校旧校舎で、昭和十二（一九三七）年、つまり七十年以上前に建てられたものださうです。

横浜を出た高速バスが彦根駅に到着したのは朝六時。豊郷小学校旧校舎が開くのは九時なので、まだく時間があります。彦根駅の周辺を散歩した後、近江鉄道で豊郷駅へ。生憎の小雨でしたが、傘がなくても少しなら何とかかなりさうです。到着を出迎へてゐたのは、ホームの広告代りに春夏秋冬をテーマに少女達をほのく描いた四枚のパネルやら、「よ

うこそ聖地へ」の幟やら。何年か前にはあの校舎を取り壊す寸前まで行つてゐたとニュースで見た事があります。が、住民の熱心な存続運動により取り壊しを免れ、今ではアニメの舞台として、全国から大勢のアニメファンを呼び寄せてゐるのです（なほ、今では裏に新校舎が建てられ、この旧校舎は現在、保存および文化活動等の為の



押井徳馬



施設となつてゐます。

それに加へて、「飛び出し坊や」とか「飛び出し人形」と呼ばれる、ベニヤ板を走つてゐる男の子の形に切り抜いて色を塗つた看板をあちこちで見掛けました。しかし、こゝは「けいおん！」の聖地です。スタンダードな男の子バージョンに加へて、アニメの登場人物になつてゐるものも所々にありました。

九時少し前に、豊郷小旧校舎に到着。アニメに出て来たそのまゝの形です。正門と校舎の間に、噴水のある大きな庭園があるのが何だかりッちな作りで、こゝに通つてゐた小学生達は、きつとそれを見るだけでもわく／＼した事でせう。

写真では校舎を何度も見てゐますが、中に実際に入つて見るのは勿論この日が初めてです。鉄筋コンクリートの建物ですが、中は木の廊下に木の扉、木がふんだんに用ゐられた昔ながらの造りで、現代の建物には無い暖かさを何となく感じます。日本でよく見られる校舎と大きく異なるのが、引き戸ではなく開き戸が多用されてゐる所。たゞし、西洋式の押して開ける戸ではなく、引いて開けるもので、廊下には戸の動く範囲を示す半円があちこちに描かれてゐました。

一階には校舎の建てられた経緯や歴史がパネルで紹介されてゐました。公立の小学校なのに、当時としてはモダンな鉄筋コンクリートのお洒落な造りなのが不思議ですが、卒業生

たまに行くならこんな聖地巡禮 宮澤賢治 in 花巻

佐藤 俊

ぼくが正字正かなを使ふのは、福田恆存の影響が大きいのだが、切掛けは宮澤賢治である。賢治は子供の頃から好きで、大學で花巻出身であり賢治ファンでもある友人と知り合ひ語り合ったりしたのだが、大人になつてから花巻の賢治記念館に行き、賢治の原稿を見て、その漢字や假名遣に觸發されて當時やつてゐたサイトで舊字舊假名を使ふやうになつたのだ。その後福田恆存に觸れ、「正字正かな」を使ふやうになつたのだがともあれ、宮澤賢治にぼくは大きな影響を受けてゐる。今回のテーマが「歴史と文學」と云ふことで、宮澤賢治の足跡を訪ねる爲巡つた花巻のスポットを紹介したいと思ふ。ただ、行つたのは十年近く前のことであり、情報が古くなつてたり記憶違いがあるかもしれないが、そこはご容赦願ひたい。

賢治記念館

花巻の市街地から離れた胡四王山の中腹にある。バスで行くと停留所からは坂道を結構歩くので注意。最初訪ねた時は空腹で行つたものだからえらい目にあつた。

館内は賢治の事物をテーマごとに紹介してゐる。さすがに量は豊富だが、昭和二十年の花巻空襲により實物が焼失してしまひ、寫真による再現も多い。先述の賢治の原稿も寫真だつたやうに記憶してゐる。

だが賢治の生涯、文學の背景を知るには恰好の施設である。

賢治の作品を讀んでると「空想の世界に生きたかつた人だつたんだな、現實はさぞ生きづらかつただらうなあ」と考へてしまふ。今で言へば「非リア」だつた訣で（しかも妹萌え、

名乗るに時あり、名乗らざるに時あり

押井徳馬

「あのね、あたし、かういふ只のゼラニウムの花だつて、ちゃんと名前付けときたいの。その方が何だか親しみが湧いて来るんですもの。ゼラニウムが只『ゼラニウム』としか呼ばれなかつたら、傷附かない訣がないわ。小母さんだつて、いつも只『女の人』としか呼ばれないのは嫌でせう。」

——「赤毛のアン」、ルーシー・モード・モンゴメリ著、拙訳

世の中には二種類の方がゐます。「相手の事を積極的に知りたがる人」と「相手の事を積極的には知りたがらない人」です。

前者は、初対面の人に会ふと「あなた名前何て言ふの、年は幾つ、どんな仕事して、どんな役職なの、どうしてもつと出世しようと思はないの、月収はどれ位なの、家族は何人ゐるの、それ／＼どんな仕事してゐるの、結婚してゐるの、どうして結婚しようと思はないの、付き合つてゐる人位ならゐるでせう、ゐないなら紹介してあげなくちやね、どんなタイ

プが好みなの」と、兎に角、相手の素性を根掘り葉掘り聞きたがります。そして、人が何処かへ出掛けるものなら、「何処行くの、何しに行くの、誰に会ひに行くの」と、また始まります。

あまりしつこいので閉口するかも知れませんが、本人に全く悪気はありません。「まづは相手の事を深く知りたい、何でも知りたい、さうしないと相手の事を本当に知つたとは云へない」と言ひます。

他方、逆の人ゐます。都会では一般的に、不特定多数の

客の来る商店では、店員が定期的に来る常連さんの顔は覚えて、余裕があれば簡単な会話くらゐはするかも知れませんが、「朝六時半頃の、いつものおばあちゃん」等と心の中で呼ぶだけで、名前や住んでゐる場所までは聞かない事が多いものです。

その最たるものがインターネットです。個人間のやりとりであるメールは例外としても、不特定多数の人が見てゐるウェブサイト（ホームページ）、ブログ、ツイッターに代表される短文投稿サイト等では、本名を名乗る人は少数派ですし、「名前は何？」と相手に聞く事も殆どありません。

本名を名乗らない人は、「ハンドル」と呼ばれる一種のペンネームを名乗るか、もしくは詠み人知らずならぬ「名無しさん」として固有名すら名乗らない人もゐます。しかし、それでもインターネットでの情報交換や交流やは、何故か活発に行はれてゐるのです。

特に「相手の事を積極的に知りたいがる」派からすると、「本名を名乗らないのに、本当の『人と人との交流』なんて成り立つものか」と云ふ疑問が当然起こるでせう。しかし、一九九〇年代中頃迄のインターネットでは、今とは逆に本名を名乗る人が多かった事をご存知ですか。そして、その後どうして本名を名乗る人が減つて仕舞つたのでせうか。

インターネットは「実名主義社会」だつた

インターネットの商業利用が解禁される一九九〇年代半ばまで、そこは飽くまでも「學術利用目的のネットワーク」に過ぎませんでした。大学や、大手企業の技術研究部門が大半の利用者でした（商業利用禁止と云つても、企業は営利活動ではなく研究目的であれば利用出来ました）。日本では、JUNET（ジェイユネット又はジュネットと読む）と云ふ、大学や企業の研究機関を結ぶ学術ネットワークがあつて、インターネットと聯絡してゐました。

World Wide Web つまり「ウェブサイト」とか「ホームページ」と呼ばれるものは、一九九〇年代に入つてから少しづつ普及したので、それ以前の主なコミュニケーション手段は「電子メール」「ネットニュース（今で云ふメーリングリスト）に少し似てゐる情報投稿・配信サービス」「FTP」辺りでした。私は高専に通つてゐましたが、そこは常時専用線で接続されてをらず、電話回線で一時間おきに接続するのみだったので、電子メールしか使へませんでした。それでも国内や海外の様々な人とメールをやりとり出来ると云ふだけで非常に有難い存在でした。

当時の私の電子メールアドレスは学籍番号や学科を含んで

西成なんか怖くない

押井徳馬

「大阪の西成は怖い場所だから絶対に足を踏み入れるな、と親に教育されてきた」

「新今宮駅周辺と動物園前駅周辺は治安が悪いから気を附けろ」

インターネットでは、自称「大阪人」が、口々にかう助言する。

しかし、私は自分の目で確かめないうちは、その言葉をそのまま信じる事は出来なかった。

大阪人達は、口先ではあんな事言ひながら、そこを舞台とした漫画「じゃりン子チエ」なら大好きだからだ。

これはまさか、大阪人の「ツンデレ」ではなからうか。

或いは、一般的な大阪人でさへも足を踏み入れた事のない場所なのだらうか。

そこで、千葉県在住の私は、大阪観光ガイドには決して掲

載される事のない、その場所を実際に訪れる事に決めたのだつた。

序章 動物園前駅近くのたこ焼き屋台

二〇〇七年初頭、人生初の大阪一人旅。私は新大阪駅から地下鉄御堂筋線に乗り換へると、真つ先に向つたのは、通天閣でした。

「新今宮駅や動物園前駅の周辺は治安が悪いから避けた方が良い」と云ふ助言は、自称「地元民」によるインターネット投稿としてよく見掛けます。これが本当なのか当時の私にはわかりませんでした。これが本当なのか当時の私にすつかり日が落ちて暗くなつてゐましたから、その不確かな情報に振り回されて遠回りすると、道に迷つて、もつと危険さう判断した私は迷ふ事なく、動物園前駅で下車して新世界

を指摘す事にしました。

駅を降りると、すぐ目に入つたのは、屋台のたこ焼き屋。何と八個で二百円と、関東ではあり得ない激安価格。「ありがたうございました、おほきに！」店のをぢさんが掛けてくれた叮嚀なお礼の言葉と、具が大きめでとろけるやうな旨さの本場のたこ焼き。今思へば、私の抱いてゐた不安感は、この時から少しづつ消え始めてゐました。

人気がない寂しい場所はあるとは云へ、拍子抜けするくらゐに治安の悪さを全く感じないまゝ、ジャンジャン横丁を通つて通天閣へ。残念ながら通天閣はもう閉まつてゐたので、「ソースの二度漬け禁止」で有名な串カツ屋で腹ごしらへをした後、地下鉄で千日前・道頓堀界限に移動して難波のカプセルホテルに宿泊。

翌日は綿々の服を着たチンドン屋のからくり人形で有名な「くだおれ」で食事をしたり（この時は知りませんでした）、その後すぐに閉店の知らせを聞き、あの時行つた店が、と非常に驚いたのです（日本橋電気街を散策したり。現地に実際に足を踏み入れると、ガイドブックやネットだけでは十分にわからなかつた「大阪の空気」を肌で感じる事が出来ます。賑やかな道頓堀の隣にある、静かで「侘び寂び」を感じる法善寺横丁。日本橋電気街は大型家電店が次々撤退して寂しい雰囲気になつてゐる一方、メイドカフェなど新しい形態

の店が登場してゐましたし、電動工具や着物のリサイクルショップが幾つかあつたのは、東の秋葉原には無い特徴でした。そして、道頓堀から道具屋筋、日本橋を通つて新世界へは歩いて行ける距離である事も。東京に喩へるなら、御徒町（おからまち）秋葉原（御茶ノ水）のやうな近さでした。今日こそは通天閣に再挑戦、展望台から南側を見下ろすと、広い天王寺動物園と、今回結局足を踏み入れる事の無かつた未知の領域である西成界限が見えました。

その晩、私は寝台急行「銀河」のベッドに横になりながら、楽しかつた大阪での出来事を回想してゐました。関東人の中には、大阪や大阪人を「怖い」と極め附ける人がゐますが、少くとも、私がこの旅行で出会つた大阪人達はみんなえゝ人でした。「大阪人はせつちちだ」と云ふのも一種の偏見で、法善寺横丁や日本橋と云ふ場所は、逆に静かでのんびりした雰囲気を感じましたし、横断する歩行者がゐると、車もきちんと止まつて道を譲つてくれました。また、大阪に行けば大阪弁しか聞けないと云ふのも間違ひで、すつかり観光地化してゐるミナミの店舗やホテルのロビーでは共通語に共通語アクセントだらけ。単なる噂だけで判断するのではなく、実際に現地に行つてみないとわからない事は、沢山あるものだ、と感じた旅でした。



簡易宿泊所の中の様子

三畳間に布団、卓^{ちゃぶ}袱^ふ台、テレビが一般的。鍵の掛かる個室だがバス・トイレは共同。

初めての釜ヶ崎

それから三年後。同人誌即売会「関西コミティア」を翌日に控える二〇一〇年十月十六日の夜、私は新大阪駅から地下鉄御堂筋線に乗り換へると、またもや動物園前駅で下車しました（その日の日中は山口市防府市にゐたのですが、その旅の詳細は、はなごよみ刊「防府にイマココ！」に譲ります）。しかし今回は、新世界ではなく南側へ。これまで足を踏み入れる事のなかった関西本線の高架の向かう側、つまり西成方面です。昔からの呼び名では「釜ヶ崎」、最近は「あいりん地区」とも呼ばれてゐる、いはゆる「ドヤ街」です。

「ドヤ街」とは、俗に「ドヤ」とも呼ばれる「簡易宿泊所」が沢山立ち並ぶ場所で、決った住所を持たない日雇ひ労働者が多く利用してゐます。きちんと鍵のかかる三畳の和室に薄い布団とテレビ・冷蔵庫、そして風呂とトイレは共同で、宿によつて時刻は違ひますが門限がある（深夜業務の簡素化のためらしい）、と云ふのが一般的で、首都圏では山谷（^{さんや}東京の南千住）、寿町（横浜の石川町駅近く）などが有名です。

私も何度か山谷の宿に泊まつた事がありました。最近は何も変わりつゝあり、昔の日雇ひ労働者も高齢化して老人だらけの街になつてゐたり、簡易宿泊所も新しく改装されて外国人

再構築バースデイ

刑部しきみ

十月半ばの夕暮れ、日没と夜の合間の僅かな明るさを遮るやうに、白衣の少女はそつと病室の簡素なカーテンを引いた。

室内の温湿度計は気温18度、湿度65パーセントを表示してゐる。

「うーん……にしてはなんか寒いな。少し温度上げるか」

少女が空調リモコンの上向き三角のボタンを数回ぐにぐにと押すと、天井に設置された空調が轟轟と唸り、遅れて獨特の臭氣を伴つた温い風が吹き出してくる。

「電氣、附けるよ」

白衣の少女がベッドの脇にあるスイッチを押すと、螢光燈の光が、微かに耳障りなチカチカ、といふ音と共に部屋の薄暗さを消し去る。一人で過ごすには少しばかり廣い個室。寒さの原因は、此處が個室だからだろうか。單に施設の老朽化の所爲かもしれない。

着古してはゐるが、糊の効いた白衣。何處か學校の制服めいた、ボタンや切り替への多いデザインから、實用の觀點から着用されてゐるものではない事が何となく伺へる。

腰まで規則正しくうねる黒髪が、レースのカチュームで纏めてられてゐる。

細いメタルフレームの眼鏡の奥の雙眸が、神經質さうに忙しなく瞬きをした。

何處か薄倖さうな、特徴の無い顔立ち。

その眼差しは、ベッドの上の少女の額に注がれる。病牀の少女もまた、白衣の少女をぼんやりと見つめてをり、二人の視線は交はらずに循環してゐる。

ベッドに横たわる少女は、暗い赤色の髪を耳の邊から短く刈り上げてゐる。遠目からでは性別を判断しづらい程のショートヘアだ。顔立ちは白衣の少女とよく似てゐるが、極端に肉の少ない體軀や、血色が悪く、日に透けてしまひさうな肌の色は、もう成長しない——その生命の終はりの氣配の濃さ、端的に云へば死のかをりが漂つてゐた。

「コサメ、髪……本當に切つて良かったのかな？」

小石の頃

酒井景二郎

第01章

七月のその日の朝、喫茶店のマスターは、水出し珈琲をガラスの装置からポットへと移し替へてゐた。

「コン、コン」

扉を叩く音が聞こえた。マスターはそれを無視した。開店前の札をかけてあるのだから、ノックの主はすぐに立ち去るだらう、とマスターは思った。しかしノックはやまない。

「コン、コン」

業を煮やしたマスターは、装置のコックを閉め、ポットを置くと、扉を開けた。

「うるせえな！ 開店は十時……」

するとそこには、タンクトップの上に薄物を羽織り、ふはふはとしたキュロットを穿き、素足にサンダル、大きなロゴがプリントされたキャップを目深にかぶつた、見たところ小學校高學年くらゐの子が立つてゐた。キャップからは、さらさらとした長い髪が溢れ出してゐる。

「びつくりした……」

帽子の影になつてゐてもはつきりと目立つ大きな黒い眼を見開いて、その子はつぶやいた。マスターは少しうろたへた。

「あ、濟まん。開店は十時ですよ。後で來なさい」

帽子をとり、小首を傾げて、眉を少し寄せ、その子は微笑み乍ら言つた。

「嫌だなあ伯父さん、ママから電話あつたでしょ？ 僕のこと覚えてない？」

「何だ、ママから電話つて……」

マスターは一瞬戸惑つたが、昨日、妹から電話があつたことを思ひ出した。

「もしもし、奏ちやん？ 今忙しい？」

「おお、久しぶりだな筐子。何だ？」

「今年の夏休み、ヤスユキをアルバイトに使つてやつてくれな
い？」

「ヤスユキ？ ああ、お前んとこの息子の那之か。随分大きくなつたらうなあ」

「うん、今中三。奏ちやん、實は大きくなつただけぢやないのよ」
「何だか含みのある言ひ方だな。……しかし、知つてゐるだらう？」

「うちはバイトが雇へる程の店ぢやないぞ」

「知つてゐる。夏の間の海水浴客からの上がりだけで、ほとんど一年やつていかなければいけないこともね」

「ひどい言い様だなあ……」

「あはは、ごめんごめん。でもね泰ちゃん、那之が行けば、上がるよ、賣上」

「どういふ意味だ、それあ？」

「行つてのお楽しみ！ ぢやあねー」

「あ、おい！……」

マスターは思はず叫んでゐた。

「お前、もしかして……那之なのか？」

「うん。伯父さん、お久しぶりです。お世話になります」

その子はお辭儀をした。そのせいでタンクトップの中身が少し見えたが、そこに乳房のふくらみは見當らなかつた。

「まあ、入つてくれ」

まだ少し慌て乍ら、マスターは那之を店の中に招き入れた。那之は大きめのキャリングケースを引き乍ら、店に入つた。

「うわ、素敵なお店……」

那之の言葉に氣づかないふりをしつつ、マスターは言つた。

「そこに座つてくれ」

マスターが指した席に、那之は腰掛けた。那之が羽織ものを脱ぐと、細い肩と鎖骨が露になつた。マスターは、さつきポットに移し替へた水出し珈琲をグラスに注ぎ、那之の前に置いた。

「ありがと。喉乾いてたんだ、今日も暑いねー」

那之が珈琲を飲み、落着くのを待つて、マスターは切り出した。

「しかし、お前、本當に那之か？ 言ひにくいだが、どうしても女の子にしか見えないが……」

「本當？ ふふふ、嬉しいな」

そこは嬉しがるころなのか？ いぶかるマスターを前にして、那之はキャリングケースを開けて、寫眞を取り出し、テーブルの上に置いた。見ると、那之と同じくらの年頃の女の子達が、揃ひのメイド服を着て竝んで寫つてゐる。

「これは？」

「卒業式前の豫餞會の寫眞だよ。この左端が僕」

「ほう……」

マスターは寫眞を取り上げた。蟲眉目かも知れないが、左端の子が一番可愛いやうに思へた。マスターは記憶を探つた。小さい頃、何度か肩車をしてあげた那之、犬に驚いて泣いてゐる那之……その面影は、寫眞の中の女の子と、目の前に座つてゐる子にもかすかに残つてゐるやうだ。

「やつぱり那之なんだなあ、全然信じられないが」

「だからさつきからさう言つてゐるぢやん！」少しふくれて、那之が返す。

「しかし、何でもまた、女装なんかすることになつたんだ？」

「うん、それはね……」

二月のとある日、那之は學校から歸らうとしてゐた。しかし、いつも使つてゐる學生鞆が見當らない。

「あれ、僕の鞆無い……」

——お知らせ——

原稿を書いてみませんか

今は少くなつた、歴史的仮名遣で作品を発表する場を作らうと創刊した「正かなづかひ 理論と実践」。

これまでの号は、同人誌即売会「文学フリマ」「コミックマーケット」「関西コミティア」で頒布しましたが、今後も同じやうに同人誌即売会や通販で頒布していきます。

方針

歴史的仮名遣は二十一世紀の現代にも生きてゐる。

- 一 全頁が歴史的仮名遣（固有名詞や引用文などは除く）。
- 二 「似非旧仮名遣」ではなく、本物の歴史的仮名遣。
- 三 同人誌のレヴュエルを越えた商業誌並の内容とデザイン。
- 四 「歴史的仮名遣＝懐古趣味」といふ先入観の打破。

募集内容

- ・ 毎号のテーマに基づく随筆や論考等（テーマ投稿）
- ・ 歴史的仮名遣の特徴や理論、論考等
- ・ コンピュータで歴史的仮名遣を使ふテクニク
- ・ 歴史的仮名遣による詩歌、小説、随筆、漫画等の創作作品
- ・ 半ページ〜四分の一ページ程度の短いコラム

次号（第五号）のテーマは「国語問題」です。もちろん、記事の内容は必ずしも国語問題に関聯させる必要はありませんので、テーマ以外の「自由投稿」も歓迎いたします。

〆切は二〇一三年八月末を予定してゐます。第六号以降のテーマはウェブサイトで告知します。

なほ、執筆者や校正・組版等の作業を手伝ってくださった方には、完成した冊子を一冊無料進呈致します。

投稿方法

本誌への投稿には、グループへの入会や会費のお支払ひは必要ありません（逆に、原稿料もお出しできません）。たゞし、スムーズな聯絡の為に、原則として電子メールアドレスをお持ちの方に限定致します。「はなごよみ」のメールアドレスまで、ご遠慮なくメールでお問合せください。

原稿も、メール本文に書いていただくか、メールにファイルを添付してお送りください。なほ、記事に関するご確認のため、編輯・校正・組版担当者にメールアドレスをお伝へする事があります。あらかじめご諒承ください。

また、スムーズな編輯・校正の為、以下の情報もメールでお知らせください。

①ペンネーム

②掲載ご希望の方はTwitter IDや電子メールアドレス

③ジャンル（解説、評論、小説、詩歌、随筆、漫画等）

④内容（国語教育に関するエッセイ、学園ものの小説、等）

⑤未完成の場合は予定文字数（文字数又は原稿用紙換算で）

⑥漢字、仮名遣（正字正かな・新字正かな・広辞苑前文方式・新字新かな）

「桜色のバッグを持つてゐる」

正字正かな
「桜色のバッグを持つてゐる」

新字正かな
「桜色のバッグを持つて居る」

広辞苑前文方式
「桜色のバッグを持つてゐる」

新字新かな
↓
「桜色のバッグを持つてゐる」に直して印刷

⑦捨て仮名（ひらがなカタカナとも使ふ・カタカナのみ使ふ「推奨」、使はない）

ひらがなカタカナとも使ふ
「桜色のバッグを持つてゐる」

カタカナのみ使ふ
「桜色のバッグを持つてゐる」

使はない
「桜色のバッグを持つてゐる」

一）新字正かな兼新字新かなの事。ひらがな・カタカナとも捨て仮名使用推奨。言葉選びの難易度が高いので、歴史的仮名遣に十分慣れた人向けです。

二）小さな「や」「ゆ」「よ」の事。

ファイル形式

文章は原則としてテキストファイルでお送りくださるか、メール本文にそのままお書きください。ワードや一太郎の文書として書いた場合は、そのファイルでも構いません。

くの字点（く・ん）は「／＼」「／」で代用しても構いません。「正字正かな」をご希望の方は、コンピュータの一般的な文字コードに無い文字（二点之纒や「示」の形の示偏の漢字等）は新字で代用するか、注意書きを附加してください。編輯時に、フォントに字形のある範囲で、印刷用の正しい字形に直します。

写真やイラストや図ですが、残念ながらカラーは出ません（口絵を除く）。画像が少なめなら、画像ファイルを文章とは別にお送りくださって構いません。写真は、可能な範囲で、縮小されてゐない、なるべく大きなサイズをご用意ください。文章と組合せる画像点数が多かつたり複雑なレイアウトの場合、ワードや一太郎で作成するか、もしお持ちなら、イラストレーター／フォトショップ等の図形編輯・画像編輯ソフトや、インデザイン等のDTPソフトでの作成を推奨します。サイズはA5版です。詳しくはメールでお問合せください。

著作権について

皆様の原稿は、「同人誌（紙版および電子書籍版）の原稿として」および「必要に応じ、同人誌頒布の際の内容見本として」使用しますが、作者に許可をいたさない限りは、それ以外の目的（他の本の原稿に転用する等）では使用しません。

また、前述の目的に限って、皆様の原稿を使わせていただきますが、原稿の著作権そのものを譲渡していただくといふ意味ではありません。後でご自分の原稿を（ウェブサイトに載せたり個人誌・同人誌・商業誌に載せる等）どう活用していただくかは、お任せします。

それでは、皆様の作品を心よりお待ちしております。

